

# 2010年度（第14回） 神戸大学ボランティア講座 受講生募集要項

## [日程]

- 講義等 …………… 2011年2月20日（日）  
体験実習 …………… 2011年2月22日（火）～3月20日（日）の内3～4日間  
意見交換会 …………… 2011年3月23日（水）

## [会場]

- 講義等 …………… 神戸大学瀧川記念学術交流会館  
体験実習 …………… 協力団体の各施設  
意見交換会 …………… 神戸大学鶴甲第1キャンパス K402 教室

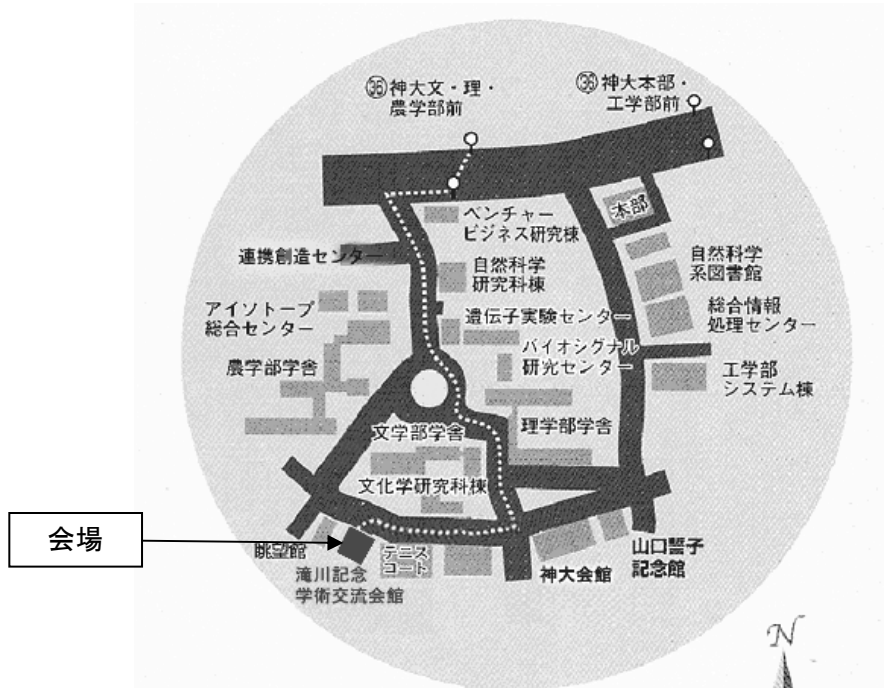
主催： 神戸大学学務部  
都市安全研究センター学生ボランティア支援室  
協力： 神戸大学学生震災救援隊  
神戸大学総合ボランティアセンター

※受講申込書は、この募集要項の最後に綴じ込んでいます。

## 会場案内

■2011年2月20日（日） 講義等会場：瀧川記念学術交流会館

【交通アクセス】阪急六甲・JR 六甲道・阪神御影の各駅より、神戸市営バス 36 系統乗車、「神大文・理・農学部前」バス停にて下車、南に徒歩 5 分（下地図参照）。



■2011年3月23日（水） 意見交換会会場：鶴甲第1キャンパス K402

【交通アクセス】阪急六甲・JR 六甲道・阪神御影の各駅より、神戸市営バス 16 系統乗車、「神大国際文化学部前」バス停にて下車、徒歩 5 分（下地図参照）。



## 1. 講座趣旨

本講座は、神戸大学生が課外でのボランティア活動や社会活動などを通じて、キャンパスの中だけでは得られない社会の実際に即した学びを得ることを目的としています。この講座の原点である1995年の阪神・淡路大震災に際しては、多くの神戸大学生が地域での救援ボランティア活動に従事し、被災した人々と真摯に向き合う中で、地域に存在するさまざまな社会的課題に気づかされ、自分の生き方や社会的役割そのものを問われる経験をしました。これを契機に、被災地にある総合大学として、神戸大学はこのような真摯な学びの場を提供し得る学生による課外での社会活動の重要性を認識し、その推進と支援を目的として1997年度より本講座を実施してきました。

なお、本講座は神戸大学学務部と神戸大学都市安全研究センター学生ボランティア支援室の連携のもと、本学学生サークル「学生震災救援隊」「総合ボランティアセンター」の協力を得て企画実施するものです。

## 2. 本年度テーマ 「つながりあう・支えあう」

本年は「つながりあう・支えあう」をテーマに設定して本講座を実施します。

人は「つながり」の中で生きていますが、普段はそれを強く感じることはないかもしれません。しかし、阪神・淡路大震災のような大きな自然災害に襲われ、家族を亡くしたり、仕事を失ったり、親しんだ地域社会が無くなると、それまで自分を支えていた「つながり」のかけがえのなさを強く感じます。

自然災害以外でも「つながり」が奪われることで人はしんどくなったり、つらくなったりして追い込まれます。何らかの理由によって学校に行けない子どもたちは、そのことによって家族とぎくしゃくし、家族との「つながり」をも失って追い込まれてしまうことがあります。失業などがきっかけで、家族などとのつながりも失い、野宿生活に追い込まれる人々もいます。文化や言葉、制度の問題で、日本人なら当たり前の学校や職場、地域社会の「つながり」から排除されてしまう外国人の方々もいます。

つながりを奪われて苦しむ人々に、ボランティアは何ができるのでしょうか。

本講座では、「子ども・若者」「在日外国人」「野宿者」「佐用町水害の被災地」「神戸の被災者・高齢者」の5つの分野で出会う人々の「つながり」を考え、自分は、ボランティアは、その人をどうしたら支えることができるのかを考えることを目的としています。さらにこの講座を通して、参加者自身を支えている多様な「つながり」についても考えてもらえればと思います。現場では「ボランティアをしている自分の方が助けられている」という言葉が聞かれることもあります。それは、ボランティアをすることでできた「つながり」が、その人を支える、かけがいのない関係になっているからです。

そんな素敵な「つながり」のきっかけが、この講座から生まれることを願っています。

### 3. 概要

- ◎定員 60人（20日の講義のみ一般参加を含め100人）
- ◎対象者 主に神戸大学生（講義は一般公開。学外者の実習参加はお問い合わせ下さい）
- ◎受講料 無料
- ◎申込方法 巻末に綴り込んである「受講申込書」に必要事項を記入し、体験実習分野と日程を選択のうえ、2011年2月14日（月）午後5時までに学務部学生生活課学生相談係、学生ボランティア支援室、各学部・大学院各研究科教務学生担当係のいずれかに提出してください。  
あるいは以下のURLからWordファイル形式の「受講申込書」をダウンロードし、別名で保存（申込者氏名が望ましい）し、必要事項を入力の上、メールに添付してsvs@port.kobe-u.ac.jpまで送信しても申込できます。  
URL <http://www.org.kobe-u.ac.jp/svsc/v2010m.doc>
- ◎会場 講義は瀧川記念学術交流会館で実施。実習は各受入先で実施。意見交換会は鶴甲第1キャンパスK402教室などで実施。

#### ◎講座内容

#### I 総論・入門編としての講義等 2011年2月20日（日）10:00~17:00

- ① 開講挨拶（10:00~10:20）
- ② 講義『『不良』ボランティアが社会を変える一支援あいの実践知』（10:30~12:00）  
講師：村井 雅清 氏（被災地NGO協働センター代表）
- ③ パネル討論「ボランティアが創る新しいつながり」（13:00~16:00）  
司会：藤室 玲治 氏（神戸大学都市安全研究センター学術推進研究員）  
パネリスト：各実習現場関係者より1名ずつ（5分野5名）
- ④ 実習ガイダンス（16:15~17:00）  
体験実習の分野ごとに分かれ、実習先の紹介と実習先が取り組んでいる問題に関する簡単なガイダンスを行います。

#### II 体験実習 2011年2月22日（火）~3月20日（日）のうちの3~4日間

各実習先の協力を得て、上記の期間内に体験実習を行います。体験実習は①「学校外の子ども」②「在日外国人」③「野宿者」④「神戸の被災者・高齢者」⑤「佐用町水害の被災地」の5分野で、受講者が選択（第1および第2希望を申込時に記入）した、いずれかひとつの分野で体験実習を行います。

定員に達した分野については先着順で〆切ります（特定の分野を強く希望する場合は早めにお申込み下さい）。逆に、定員に空きがあれば、希望者は第1希望分野以外に第2希望分野の実習にも参加可能です。各分野の詳細については6頁をご参照下さい。

### Ⅲ 意見交換会 2011年3月23日(水) 10:00~18:30

体験実習などを中心に意見交換及び情報提供などを行い、より深い問題意識などを養うことを目的とし、次の内容により行います。

- ① グループ内討論 (10:00~12:00)
- ② 発表・全体討論 (13:00~17:30)  
コメンテーター：各実習現場関係者より1名ずつ(5分野5名)
- ③ 講評 (17:40~18:00)
- ④ 閉講のあいさつと講座修了認定証配布 (18:00~18:30)

#### ◎ボランティア保険の加入について

体験実習に参加する場合は、ボランティア保険に加入します。未加入の方は2月20日(日)の本講座受付で加入手続き(加入料：50円)を行ってください。

#### ◎交通費・宿泊費について

⑤「佐用町水害の被災地」以外の分野では、実習先に行くための交通費(定期券等が重複していない区間のみ)は一人当たり1,000円を限度に支給されます。実習時に請求書に記入して実習終了後、実習グループ代表に提出し、3月23日(水)の意見交換会の際に受け取ることになります。

2泊3日で実施する⑤「佐用町水害の被災地」分野については、大学の借り上げたバスで移動するため、交通費は必要ありません。宿泊費も不要です(ただし、現地での食費は自己負担)。

#### ◎レポートの提出について

受講者は、初日の講義と現場実習に関するレポート2本を3月21日(月)までに提出して頂きます。提出されたレポートは、「神戸大学学生ボランティア講座報告書」に原則として原文のまま掲載し、印刷・公表します。それにより受講者、協力者及び協力団体へのフィードバックと、将来の大学活動での活用を図ります。

#### ◎修了証の交付について

受講状況などの所定の要件を満たし、レポートを提出したのものには、修了証を交付します(単位の認定は行いません)。

問い合わせ先：

#### 【学務部学生生活課】

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1丁目2-1 神戸大学学務部学生生活課学生相談係(藤原)  
TEL：078-803-5227 FAX：078-803-5209 E-mail：stdnt-gkmsodan@office.kobe-u.ac.jp

#### 【学生ボランティア支援室】

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1丁目2-1 神戸大学学生ボランティア支援室(藤室)  
TEL：078-803-6256 FAX：078-803-6028 E-mail：svs@port.kobe-u.ac.jp

## ◆体験実習分野① 「学校外の子ども」分野について

◎募集定員：10名程度

◎実習期間：2月22日～3月19日までの間の3日間（選択）

### ◎背景と課題

「世の中には多様な価値観がある」というようによく言われます。「どんな価値観があってもいい」と、口にする人間もいますが、しかし、僕たちはどこか共通の価値観にとらわれています。例えば、「お金」です。お金は全ての人間がその価値を信じなければ通用するものではありません。このように、今の社会にはすべての人間共通の価値観というものがどうしようもなく存在し、その価値観が社会を形作る根本的なものであったりするものです。

子どもたちが通う「学校」は、ひとつの小さな社会です。多くの子どもは、学校で1日時間をすごしますが、「学校の共通価値観」になじまない子どもというのは当然存在します。学校の中に生きづらさを感じた子どもたちは、どこを居場所にすればよいのでしょうか？

この実習の中では、多くの「学校外の子どもたち」と出会い、彼らの居場所、そして僕らの居場所について考えてみたいと思っています。そして、「社会全体にある共通の価値観」について問い直し、生きづらさを感じる世の中で何が大切なのか考えてみたいと思います。

### ◎実習のねらいとプラン

#### ① 「不登校の子どもの居場所」

「フリースクール ForLife」と「神戸フリースクール」で実習を行います。合計5日間の実習日の中から、都合の良い日 2日間を選んで参加してください。同じフリースクールに2日間行っても良いですし、別々のフリースクールを選んでもかまいません。

「フリースクール ForLife」では、昼から夕方にかけて、子どもたちと一緒に、スポーツをしたり、おしゃべりをしたりしながら、のんびりとした時間を過ごします。「神戸フリースクール」では、子どもたちとお昼ご飯を作りながら交流します。なぜフリースクールのような居場所が必要なのか、考えてみたいと思います。

#### ② 「発達障がいの子どもの居場所」

「NPO ふおーらいふ」の行っている、「土曜クラブ」と「放課後クラブ」に参加します。

「土曜クラブ」は、発達障がいをもつ子どものソーシャルスキルを育むための活動、「放課後クラブ」は発達障害をもつ子どものための学習支援活動です。発達障がいとはどんなものなのか、そして発達障がいはどうして障がいとなっているのか考えたいと思っています。「土曜クラブ」と「放課後クラブ」、合わせて3日間の実習日から 1日を選んで参加してください。

◎日程・実習内容一覧

実習概要	実習協力団体及び実習内容	実習期間
不登校の 子どもの居場所 ※2日選択。 同施設でも違う 施設でも良い。	協力団体：神戸フリースクール 実習内容：子どもたちと、ランチを作りながら楽しく交流します。 実習場所：神戸市中央区下山手通 8-10 集合場所：阪急花隈駅西口	時間：11:00～17:00 集合：10:45 ・3月7日（月） ・3月14日（月）
	協力団体：フリースクール ForLife 実習内容：こどもたちと一緒にスポーツなどを通して交流します。 実習場所：神戸市垂水区仲田 2-1-32 集合場所：JR 垂水駅改札	時間：12:00～17:00 集合：11:00 ・2月22日（火） ・2月25日（金） ・3月11日（金）
発達障がい の 子どもの居場所 ※1日選択	協力団体：NPO 法人ふぉーらいふ 実習内容：発達障がいの子もたちと、遊びや勉強を通して交流します。 実習場所：神戸市垂水区仲田 2-1-32 集合場所：JR 垂水駅改札	「土曜クラブ」 時間：10:30～17:00 集合：10:10 ・3月19日（土）
		「放課後クラブ」 時間：15:30～18:30 集合：15:10 ・3月3日（木） ・3月10日（木）

## ◆体験実習分野② 「在日外国人」分野について

◎募集定員：10名程度

◎実習期間：2月22日～3月19日までの間の3日間（選択）

### ◎背景と課題

日本に住み、日本で生活しているのは日本人だけではないことは、今では当然とも言えます。しかし、日本に住む外国人や外国にルーツを持つ人たちがどのような生活を送っているか、これを想像するのは、案外難しいものです。

たとえば、私たちが使用している日本語。日本に暮らして、日本語を使うのは当然のことと思われがちです。けれども、外国にルーツを持つ子どもたちにとっては、この日本語が壁となり、満足に学校で学習できなかつたり、授業内容についていけなくなつたりして、それが進学率の低下に結びつき、将来的には雇用問題にもつながっていきます。

また、日本語の読み書きができなければ、どんなに日本での生活が困難か想像してみてください。書類が書けないために十分な（日本人にとっては普通の）サービスが受けられない、文字が読めないために自分の行きたいと思ったところに行けなかつたり、「危険」と表示がされていてもそれが分からず、自身の身に危険が及ぶ……。こんな状態で、満足に日々の生活を送れるのでしょうか。

そういった彼らの生活を考える事なく、「自分とは国籍・文化が違うから、分かり合えない」という風に外国人を敬遠していたり、一部の人の行動により差別してしまつたり、偏見を持っている場合が少なからずあるのではないのでしょうか。

この分野では、実際に在日外国人の方と交流し、彼らが実際にはどういう人達なのか、その人柄や文化に触れながら、多様な人とつながり合い、ともに生きるとはどういうことかを考えていきたいと思ひます。

### ◎実習概要

この分野では、3ヶ所3日間の実習を通して在日外国人の方々と交流し、どのような支援活動があるのかを学びます。

#### ①ソロソロ会

在日コリアンの高齢者の方のサポートをしている「ソロソロ会」で、在日コリアン高齢者の方と昼食会で朝鮮料理と一緒に食べ、レクリエーションに参加しながら交流します。

#### ②在日外国人の子どもの学習支援

外国にルーツをもつ子供の学習支援を行っている「多文化子ども共育センターMOI」に行き、ベトナム、フィリピン、ペルー、中国などの子どもたちと触れ合いながら、学校の宿題や漢字を教えたりします。



### ③在日韓国・朝鮮人の識字学習支援

長田公民館で行われている「識字教室ひまわりの会」へ行き、そこの利用者（学習者）の多くを占める在日韓国・朝鮮人1世の方々と触れ合いながら、文字の読み書きを学ぶお手伝いをします。

#### ◎日程・実習内容一覧

実習概要	実習協力団体及び実習場所	実習期間
在日外国人の高齢者サポート	協力団体：在日コリアン高齢者サポート「ソロソロ会」 実習場所：神戸市生涯学習支援センター（コミスタこうべ）多目的室 302 （中央区吾妻通り 4-1-6） ※昼食代 300 円が必要です	2月26日（土） 10:00～14:00
在日外国人の子ども学習支援 ※1日選択	協力団体：神戸定住外国人支援センター多文化子ども共育センターMOI 実習場所：長田区若松町 4-4-10 アクアクエスト北棟 502	期間中の火・水・木曜から1日選択。 火曜（定員2名） 15:30～18:00 水・木曜（定員2名） 15:30～18:00 or 18:00～20:30
在日コリアンなどの識字学習支援 ※1日選択	協力団体：識字教室ひまわりの会 実習場所：長田区四番町 4-51 長田公民館	期間中の土曜から1日選択。 10:00～12:00

## ◆体験実習分野③ 「野宿者」分野について

◎募集定員：10名

◎実習期間：2月20日～3月23日までの間の4日(選択)

### ◎背景と課題

野宿している人—いわゆる「ホームレス」に対しては、“なまけもので好きで野宿をしている”というような偏ったイメージがよく持たれます。そのため地域社会からの排除や、若者による襲撃など、差別的に扱われることが多々あります。しかし、実際に野宿をしている人の多くは、やむなく野宿に追い込まれているのです。今回、この分野では以下のことについて考えていきたいと思います。

(1)野宿せざるをえなくなった人を支援するさまざまな活動があります。今回の実習では、実際に行われている支援活動に参加して、どのような活動があるのか学ぶと同時に、野宿をしている側と支援している側の2つの立場に立って、そもそも支援するとは何なのか、そのあり方について考えます。

(2)野宿生活からたとえ居宅に移行したとしても、野宿生活での人との繋がりを失い、新たな繋がりもできないまま生きている意味を見いだせなくなる人がいます。中には、孤独感から再び野宿生活に戻る方もいます。生きがいや、人と繋がり支え合うことのできる場所の必要性について考えたいと思います。

### ◎実習のねらいとプラン

ここでは、野宿生活を強いられている人の現状と、「夜回り」「炊き出し」「就労支援」「居場所づくり」などの野宿者支援の実践について、4つの実習を経て学びます。

#### ①夜回り

神戸で「カトリック社会活動神戸センター」が神戸市中央区等で毎週行っている夜回り活動か、大阪で「こどもの里」が行っている「こども夜回り」のどちらかに参加し、実際に野宿をしている人たちを訪問します。

#### ②炊き出し

神戸と大阪で行われている炊き出しに参加します。「カトリック社会活動神戸センター」が三宮小野浜で定期的に行っている炊き出しか、「支援する側」「される側」という関係性を壊して、野宿生活を余儀なくされている人々と共に行動していくことを目指している団体である「釜ヶ崎パトロールの会」が大阪市北区の扇町公園で行っている共同炊事のどちらかひとつを選びます。

#### ③就労支援

3つ目は、大阪市西成区の釜ヶ崎で、野宿をしている高齢者を対象にした特別清掃事業に参加します。これは、大阪にある「NPO 釜ヶ崎支援機構」が行っている事業の一つで、大阪府と大阪市から委託されているものです。大阪市内及び府下の施設や道路などの除草・清掃や、保育所の遊具のペンキ塗りなどの作業に参加し、収入を得るものです（学生は登録できないので収入はありません）。野宿者をしている人たちと作業をしながら、就労支援について学びます。

#### ④居場所づくり

大阪の長居公園近くにあるフリースペース「オシテルヤ」で月に一度開かれている、“いこいの会”に参加します。オシテルヤは、地域のさまざまな活動拠点として利用されています。その活動の一つである“いこいの会”は、生活保護を受給するようになって、居宅で一人暮らしを始めた元野宿者の親睦会であり、そこでは野宿者の社会的つながりの必要性が重視されてい

ます。いこいの会での交流から、野宿者または居宅に移行した人の精神的な居場所について考えます。

4つの実習を通して、野宿をされている方と直接出会い、野宿者の置かれている状況について理解を深めると同時に、支援活動の在り方や居宅に移行した後の生活など、野宿について多角的に考えたいと思います。

#### ◎日程・実習内容一覧

実習概要	実習協力団体及び実習内容	実習期間
夜回り活動 ※神戸および大阪の3日のうち、どれか1日を選択	協力団体：カトリック社会活動神戸センター 実習内容：中央区近辺で野宿をされている方たちを訪問する夜回り活動に参加します。 実習場所：カトリック中山手教会より現場へ。 集合場所：阪急三宮駅東口改札前 18:30 集合	2月23日(水)か 3月9日(水) 18:30 集合 19:00~22:30
	協力団体：カトリック大阪大司教区こどもの里 実習内容：大阪市内で野宿をされている方たちを訪問する夜回り活動に参加します。 実習場所：こどもの里から現場へ。 集合場所：JR新今宮駅改札前 19:30 集合	2月26日(土) 19:30 集合 20:00~25:00 ※こどもの里に宿泊可
炊き出し ※神戸および大阪の3日のうち、どれか1日を選択	協力団体：カトリック社会活動神戸センター 実習内容：三宮の小野浜にて、野宿者へのお昼ご飯の炊き出し活動に参加します。 実習場所：中央区浜辺通1丁目小野浜公園内 集合場所：阪急三宮駅東口改札前 8:30 集合	2月22日(火)か 3月17日(木) 8:30 集合 9:00~14:00
	協力団体：釜ヶ崎パトロールの会 実習内容：大阪の扇町公園にて、野宿者の方の共にお昼を作る協同炊事に参加します。 実習場所：大阪市北区扇町公園内 集合場所：JR天満駅改札前 10:00 集合	3月8日(火) 10:00 集合 10:30~14:00
野宿者に対する就労支援 ※どちらか1日を選択	協力団体：NPO法人釜ヶ崎支援機構 実習内容：高齢の野宿者を対象にした特別清掃事業に参加します。 実習場所：大阪市内各地 集合場所：JR新今宮駅改札前 8:00 集合	3月7日(月)か 3月11日(金) 7:30 集合 ※2日のうち1日選択
居宅移行後の居場所	協力団体：フリースペース「オシテルヤ」 実習内容：生活保護を利用している元野宿労働者の親睦会である「いこいの会」に参加して、交流します。 実習場所：フリースペース「オシテルヤ」 集合場所：大阪市営地下鉄御堂筋線西田辺駅改札前 9:30 集合	3月6日(日) 9:30 集合

## ◆体験実習分野④ 「神戸の被災者・高齢者」分野について

◎募集定員：10名程度

◎実習期間：2月22日～3月19日までの間の3日間（選択）

### ◎背景と課題

震災が起こった後、被災地で明らかになった多種多様な課題に対応する形で、様々な市民団体や活動が生まれてきました。震災の爪痕は時間が経ち目に見えづらくなっています。しかし、震災から16年以上経った今でもそれらの課題は形を変えながら、あるいはそのまま残っています。今回の実習ではそれらの課題の中でも特に「高齢者」に関わる課題に焦点を当てていきます。

震災後に各地に建設された復興住宅。住み慣れた土地を離れ、知らない土地や人の中で暮らすことは生活圏が自宅と密着していた高齢者にとっては死活問題となりました。今まで育んできた生活基盤や人間関係から切り離された結果、誰からも看取られずその命を終える人が出てくる中で「孤独死」というキーワードによって復興住宅の現状や、人を取りまく地域コミュニティの必要性が世間でも議論されるようになりました。それでは、実際に被災地で生活している高齢の方々はどんな生きづらさを抱えながら生活しているのでしょうか？また、その生きづらさに対して私たちはどんなことができるのでしょうか？

実習を通して、震災から今まで、被災地の課題に対峙し、そこで生活する人に寄り添い続けるような団体の活動に参加することで、復興住宅の抱える課題や地域コミュニティの在り方、ひいては年をとってからも「生ききる」ことができる社会の在り方について考えていきたいと思えます。

### ◎実習のねらいとプラン

#### ① 高齢者と「生きがい」

阪神・淡路大震災をきっかけに設立された「阪神高齢者・障害者ネットワーク」という団体の協力の下、「伊川谷工房あじさいの家」と「新大池東住宅」での活動に参加します。

合計4日間の実習日の中から、2日間を選んで参加してください。同じ実習先に2日間参加してもかまいません。

「伊川谷工房あじさいの家」は「高齢者が生きがいを持って暮らせること」を意識したデイサービスです。1日デイサービスの利用者さんと過ごしながら、どうして「生きがい」が必要なのか？「生きがい」のある暮らしとはどんな暮らしなのか考えたいと思えます。

「新大池東住宅」は須磨区に建てられた復興住宅です。週3日行なわれている住宅内のお茶会に参加させていただきます。実習を通して、週3日も何故お茶会が開催されているのか？お茶会が暮らしにどんな影響を与えているのか？利用されている方々にとってどんな存在なのか？という問いを通して復興住宅の課題や地域コミュニティの在り方について考えたいと思えます。

## ② 震災から17年目、孤独と不安

阪神・淡路大震災の発生後、避難所や仮設住宅での生活相談や戸別訪問として始まった「NPO 法人よろず相談室」という団体の活動に参加します。2日間の実習日の中から2日間を選んで参加してください。

実習は午前中によろず相談室の主宰である牧秀一さんから復興住宅の現状のレクチャーをしていただいた後、実際に「よろず相談室」が行なっている戸別訪問に参加する形で行われます。戸別訪問で出会う方々との会話を通して、戸別訪問が訪問先の方々にとっていったいどんな意味を持っているのか、復興住宅の現状はどのような状況なのか触れていきたいと思います。

### ◎日程・実習内容一覧

実習概要	実習協力団体及び実習内容	実習期間
高齢者と「生きがい」※2日選択。同施設でも違う施設でも良い	協力団体：特定非営利活動法人 阪神高齢者・障害者ネットワーク 実習内容：デイサービスを利用されている方々と一日交流します。 実習場所：「伊川谷工房あじさいの家」 神戸市西区前開南町 1-2-1	時間：9:15～17:00 集合：地下鉄西神山手線 伊川谷駅 9:00 集合 ・2月25日（金）（足湯※） ・3月16日（水）
	協力団体：特定非営利活動法人 阪神高齢者・障害者ネットワーク 実習内容：復興住宅で開催されるお茶会に参加し、住民の方々と交流します。 実習場所：神戸市須磨区板宿「新大池東住宅」	時間：9:30～17:00 集合：JR 鷹取駅 9:00 ・2月28日（月）（足湯※） ・3月9日（水）
震災から17年目、孤独と不安※1日選択	協力団体：NPO 法人よろず相談室 実習内容：よろず相談室の復興住宅に住む高齢者を対象にした戸別訪問活動に参加します。 実習場所：神戸市東灘区の「よろず相談室」に集合後、神戸市内各所に移動します。	時間：10:00～18:00 集合：9:45 阪神住吉駅前 ・2月27日（日） ・3月13日（日）

※実習時間は若干前後する場合があります。

※実習内容に（足湯）と記載されている実習では、利用者の方々と「足湯ボランティア」を通して交流します。ジーンズなど、動きやすい服装で参加してください。

## ◆体験実習分野⑤ 「佐用町水害の被災地」分野について

◎募集定員：15名

◎実習期間：3月16日～3月18日の3日間（2泊3日）

### ◎背景と課題

佐用町は、2009年8月に、台風9号により死者11名、行方不明者2名、そして多大な家屋の被害を受けました。直後はなかなか終わらない復旧作業に多くの方が疲れた表情を見せていました。そして、避難所で過ごされていた方は、その後仮設住宅や1階部分を新しくした自分の家に移りました。

現在、水害から1年以上が過ぎ、水害の爪痕はよく見ないと分からなくなりました。しかし、住民の方は水害が起こった当時の様子を未だにたくさんお話しされます。それだけ、今回の水害は、生活を変えた、人によっては生死を分けた大きな出来事でした。

水害後、佐用町を元気づけようと復興の取り組みを積極的に頑張っておられる方々もいます。大きな被害を受け、水害後より一層人通りが少なくなってしまった佐用商店街を盛り上げようと様々な工夫をされています。しかし、なかなか思うようには活気づいていないのが現状です。

この実習で、被災地というところがどういうものか、そして1年半を過ぎた被災者は今どんな思いでいるのか、復興の取り組みをされている方の想いを学べるようにしたいと思います。

### ◎実習のねらいとプラン

- ①佐用商店街を訪問し、「佐用町商工会青年部」から、商業の被害と復興への取り組みを学びます。
- ②足湯ボランティア活動を通して、被災者の生の声を聞きます。足湯ボランティアとは、たらいにお湯をはって足をいれて温まってもらいながら、手のマッサージをしてお話をする活動です。リラックスしてもらいながら1対1になることで、住民の方とじっくりとお話しできる機会になると思います。
- ③「生活研究グループ」の皆さんと交流しつつ、作用の農村部の生活とその被害を学びます。水害の時はお弁当を作って被災者に届ける活動をされていたり、炊き出しをしていたりしていた生活研究グループの取り組みを聞かせていただき、地元の小学生らと一緒に料理教室をします。

## ◎日程・実習一覧

### 【3月16日（水）】（佐用町商店街での復興と自立）

8:00	神戸発
10:00～	佐用町商工会青年部の方々によるレクチャー
12:00～	昼食
13:30～	商店街内の聞き取り・フィールドワーク
16:00～17:00	フィールドワーク報告
18:00～	笹ヶ丘荘に移動。入浴・食事など

（協力団体：佐用町商工会青年部 実習場所：佐用町商店街各所）

### 【3月17日（木）】（平福での足湯と奥海での森林管理）

8:00～	起床
10:00～	平福「ぎゃらりーほっと」で足湯ボランティア活動
12:30～	昼食・交流
14:00～	佐用町の山林管理の課題と、奥海での森林見学
17:00～	奥海発
18:00	笹ヶ丘荘着
19:00～	井口美子さん（生活研究グループ）レクチャー

（協力団体：佐用町社会福祉協議会、奥海集落、被災地 NGO 協働センター）

### 【3月18日（金）】（生活研究グループとの交流）

9:00～	生活研究グループのみなさんと「きなこ豆腐」作り
12:30～	昼食・交流
14:00～	被災した田畑のフィールドワーク
17:00～	佐用町発
19:00	神戸着

（協力団体：佐用町生活研究グループ「ほほえみの会」 実習場所：佐用町各所）

※佐用町への移動は大学の貸切バスで行うため、交通費は不要。  
※宿泊施設も大学借上げなので宿泊費は不要。ただし食費は自己負担。